

王様とにんじんくん。



## 王様とにんじん君

ある国のお話です。

王様とお妃さまは毎日大金を使って遊んでおりました。

王様は国民よりも、自分がごうかな服をきてぜいたくな暮らしができればよいと考えておりました。

お妃さまは王様のお金でぜいたくできるので一緒に暮らしていました。



そんな夫婦のあいだに愛のきずなはありませんでした。

王様の側近のにんじんくんは「なんてさみしい夫婦なんだろう」と思いました。

ある日、王様の誕生日会があり、みんなを呼びました。

みんなは口では「おめでとうございます」といいますが、心のなかでは王様のことをよく思っていないでした。

沢山のもので王様の家は溢れかえりました。どれも高級なものばかりでした。

しかし、王様の心は何だかさみしくなるばかり・・・。

側近のにんじんくんにいいました。



「なぜかはわからぬが、心がさみしくなるばかり・・・

なにかの病気ではないか」

にんじんくんはいいました。

「このあふれかえったものを少しでも貧しい国民に分けてあげたら、王様のさみしい心も治るかもしれませんよ。」

王様は「そうか」といい、もらったものたちを貧しい国民に分け与えることにしました。

すると国民は大喜び。王様に口々にいいました。

「王様、ありがとうございます。」

何もお渡しできるものはありませんが、お誕生日おめでとうございます！」



みんなに心から感謝され、王様は初めて幸福な気持ちになったのです。

おしまい。

王様とにんじんくん

<http://p.booklog.jp/book/100838>

著者 : aoi

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/kumonosu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/100838>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/100838>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社ブクログ